

## 2011年度 日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点 研究プロジェクト 研究計画書

2011年 月 日 提出

1. 研究プロジェクト名	文化・歴史的コンテンツに基づくe-Learningシステムに関する研究	
2. 研究プロジェクト代表者	稻葉光行	
3. 研究班 メインとなる研究班 その他		京都文化研究班
		日本文化研究班
		歴史地理情報研究班
		デジタルアーカイブ技術研究班
		Web活用技術研究班
4. 研究期間	2011年 4月 ~ 2012年 3月	
5. 研究メンバー		
種別	氏名	所属・職名
事業推進担当者	稻葉光行 細井浩一 Ruck Thawonmas 中村彰憲 上村雅之	立命館大学大学院政策科学研究科・教授 立命館大学大学院映像研究科・教授 立命館大学大学院理工学研究科・教授  立命館大学大学院映像研究科・教授 立命館大学大学院先端総合学術研究科・教授
特別招聘教員		
研究員		
客員研究員		
PD		
RA	玉井未知留	立命館大学大学院政策科学研究科・D2
学内研究協力者	大野晋	立命館大学大学院政策科学研究科・D4
その他		

6. 2011年度教育研究計画（今年度の教育研究内容、目的と結果の予想の関係が理解できるようにご記入ください。特に若手研究者（研究メンバーのPD、博士課程後期課程大学院生）の役割、教育効果を具体的にご説明ください）。

**目的：**

本研究では、Web上の文化・歴史的コンテンツによって媒介された学習者同士のインタラクションによる新しい協調学習システムの実現と、Web上での学習者コミュニティの分析手法の確立を目指している。2011年度は、以下の2つのテーマに取り組む。

**内容：**

**テーマ1：メタバースにおける日本語・日本文化に関する状況学習支援環境の構築**

本研究の目的は、ネット上の仮想三次元空間であるメタバースを利用することで、日本文化を学ぼうとする世界中の人々に対し、日本の伝統文化や習慣を学習できる実用的なe-ラーニング環境を提供することである。

2010年度（本研究初年度）は、メタバース環境として世界中で広く用いられている SecondLife(SL)上に、能舞台や寺社建築など、日本の伝統的な建築物を設置した。また、着物をまとったアバター、仕舞の動作、寺社の境内にある様々な人工物などをSL上に実装した。さらに、日本語教育を専門とする日本人学生および研究者と、日本語・日本文化に興味を持つ外国人留学生がペアとなってSL環境を探索しながら、日本の習慣を教え学びあうという協調学習に関する実験を実施した。実験後のアンケートおよびインタビュー調査の結果、メタバース環境での学習は、教科書やWeb上のe-ラーニングシステムによって日本語・日本文化を学習する場合と比較して、状況や文脈に基づく日本語・日本文化理解を効率よく促進できる可能性が示唆された。

2011年度は、日本語・日本文化学習支援の拠点を持っている、あるいはSLを高等教育に活用している育機関（アルバータ大学、シンガポール国立大学、など）と共同することで、双方の大学の学生を対象とした日本語・日本文化に関する学習実験を行い、現状の学習環境の評価を行うとともに、さらなるデザインと学習環境の改善に取り組む。

これらの研究は、研究代表者（稻葉光行）およびの指導のもと、関連領域の事業推進担当者の協力を得て、本拠点の若手研究者である玉井未知留氏（本拠点RA）が中心になって進めしていく。研究の成果については、DADH2011、文化とコンピューティング学会、CH研究会等で発表する予定である。

**テーマ2：実践共同体としてのWikipediaコミュニティにおける協調学習とソーシャル・キャピタルの形成に関する考察**

本研究では、Web上の知的生産活動にもとづく実践共同体の成功例として注目されている Wikipedia上のコンテンツの利用者・投稿者コミュニティ（Wikipediaコミュニティ）を対象とし、参加者同士の相互作用および協調学習の過程について分析・考察を行ってきた。

2011年度は、現実社会のコミュニティ活動を捉える概念的枠組みとして近年重視されているソーシャル・キャピタル論の観点から、Wikipediaコミュニティにおけるソーシャル・キャピタルの形成プロセスを考察し、そのプロセスがWikipediaコミュニティにおける知的生産活動の展開にどのような影響を与えていくのかを分析していく。具体的には、伝統的な日本文化に関するコンテンツ構築を行っているコミュニティと、ビデオゲームやアニメなどの現代的な日本文化に関わるコンテンツ構築を行っているコミュニティにおける、古参者と新参者の間のインタラクションについて、科学計量学や社会ネットワーク分析手法を用いて分析・検討を行う。

これらの研究は、研究代表者（稻葉光行）およびの指導のもと、関連領域の事業推進担当者の協力を得て、本拠点の若手研究者である大野晋氏（本拠点RA）が中心になって進めていく。研究の成果については、DADH2011、文化とコンピューティング学会、CH研究会等で発表する予定である。

7. 教育研究計画・方法 教育研究目的を達成するための計画・方法、実施する場所をできるだけ具体的に記入してください		
実施時期	計画内容	実施場所
2011年 4～6月	<p>テーマ1：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内外の教育機関によるメタバースを用いた学習実践動向調査</li> <li>・ SLにおける日本語・日本文化学習のためのコンテンツデザイン</li> </ul> <p>テーマ2：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ソーシャル・キャピタル論の視点からのオンラインコミュニティ研究動向調査</li> </ul>	ARC
7～9月	<p>テーマ1：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SLにおける日本語・日本文化学習のためのコンテンツ実装</li> </ul> <p>テーマ2：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ソーシャル・キャピタル論の視点からのWikipediaコミュニティの分析（主な分析対象：伝統的な日本文化に関するWikipediaコミュニティ）</li> </ul>	ARC
10～12月	<p>テーマ1：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海外教育機関との共同によるSL上での日本語・日本文化学習実験</li> </ul> <p>テーマ2：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ソーシャル・キャピタル論の視点からのWikipediaコミュニティの分析（主な分析対象：現代的な日本文化に関するWikipediaコミュニティ）</li> </ul>	ARC、学内の情報教室 、および海外教育機関
2012年 1～3月	<p>テーマ1：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実験結果の分析・考察、および報告書作成</li> </ul> <p>テーマ2：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分析結果の公開および報告書作成</li> </ul>	ARC